

シャンティ 通巻274号
2014年4月28日 第三種郵便物承認
2014年4月10日発行 (1~4~7)
10月の1日(土)

シャンティ Shaanti

274

2014年4月
はる

わたしたちの
ちいさな
図書館



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会



書館というと、シーンと静まり、
私語は禁止！

そんなイメージありませんか？

でも、本を介して人と人が出会う場所としての図書館が、できはじめています。「マイクロ・ライブラリー」と呼ばれる、カフェや、店舗、寺院の中、会社の一角など、個人でつくるちいさなライブラーです。

お母さんが自宅を開放して設けていた「文庫」を思いだすとわかりやすいかも

この「ちいさなライブラリー」に集まる人の間では、本を通して、自然な会話が始まります。

「じゃあ、私も読んでみよう」

本が人をつなぐ、図書館はそんな優しい場所になりつつあります。

- 32 31 30 26 22 12 4
定點観測..アジアから
 タイ／カンボジア／ラオス／ミャンマー／ビルマ）難民キャンプ
 アフガニスタン／岩手／氣仙沼／山元
特集 わたしたちのちいさな図書館
 ある図書館の1日／わたしたちの図書館
 日本のまちかど図書館／ちいさな図書館づくりを実現する
世界の絵本を読んでみよう
 民話絵本「金のカラス」(ラオス)
SVAのつどい
シャンティな人たち
 日本しゃんていな旅
 SVA日本人スタッフ紹介
おしらせ／編集後記
 道 図書館は、居場所です 真光寺

Index

シャンティ 274号 目次





ぼくもわたしもできるよ!おはなしの読み聞かせ

カンボジア Cambodia

報告：大橋美紗子（カンボジア事務所）

2013年12月、各州から集まつた読み聞かせ自慢のストーリーテラーたちがその技を競う「第17回・全国カンボジアおはなし大会」が開催されました。図書館員、教員に加えて、子どもたちによる絵本の読み聞かせも披露されました。

初めは表情が硬くなっていた子どもたちでしたが、いざ本番になると堂々と大人顔負けの話しつぶり。読み聞かせの前には簡単な手遊びやゲーム（写真）をして、聞き手の子どもたちの心をバツチリつかんでいました。

子どもの発表は初の試みでしたが、審査委員会や参加者からは「感動した」、「次回はさらに発表の場を広げていこう」などと前向きな意見が挙げられ、大好評でした。読み聞かせをするに憧れをもつた子どもたちが自分も読み聞かせをしてみる。それは大人の読み聞かせとはまたひとあじ違った面白さがあり、大人も子どももひき込まれてしまいます。そんな小さなストーリーテラーたちのこれから活躍を応援していきたいと思いました。



奨学生と家族の暮らし 一バンコク・スラム地区-

報告：吉田圭助（シーカー・アジア財団） 写真：瀬戸正夫

タイ Thailand

細い路地に窮屈に家が立ち並ぶチュアパーン・スラムで、ネーチャノック・ゲオングンさん（中学1年生・左）は暮らしています。母は縫製の仕事をしていましたが、日がよく見えなくなり昨年仕事を辞めました。今は自動車塗装をする父一人の収入が頼りですが、不安定で家族が暮らすには十分ではありません。「安定した職業の求人は大卒ばかり。知識がないと仕事を見つけることも難しいから、困らないように一生懸命勉強してほしい」と母は語ります。

公立校に通うネーチャノックさんは、学費はかかるものの、制服や勉強道具をそろえる費用や日々の通学に支出がかさみます。「いただいた奨学金で制服を買いました。本当にどうもありがとうございます。」と話し、奨学金が家計の負担を和らげてくれると続けました。ネーチャノックさんの成績は評定平均最高の4、好きな科目は英語です。将来は医者になりたいと期待を膨らませています。



難民キャンプのスタッフが集合

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ **BRС**

報告：チャンティボーン・カウイナム＝ウェン（BRС事務所）

2月11日から14日午前中まで、ウンピアム難民キャンプで「図書館運営合同研修」が開かれました。図書館事業に携わる7カ所の難民キャンプの図書館担当スタッフ（写真）が一堂に会し、ファシリテーションスキル研修、スタッフの責任、おはなし会に必要な読書推進スキルや情報提供のためのコンピューターの使い方を学びました。

参加者のためにタイ政府と交渉して、移動許可をもらう必要があり、総務担当として、この準備や交渉が困難でしたが、各難民キャンプから会場への長い道のりに屈せず、コミュニティ図書館を良くしたい、という思いを持ったスタッフが集まつたことを嬉しく思っています。

研修参加者からは、「研修で学んだことを応用して、利用者に役立つ図書館を作りたい」、「他のスタッフと意見交換できて大変勉強になった」、「また研修に参加して、リーダーシップスキルを向上させたい」などの声があがりました。今後もよりよいコミュニティ作りのスキルを学んでほしいと思っています。



図書館活動に携わってきた19年間

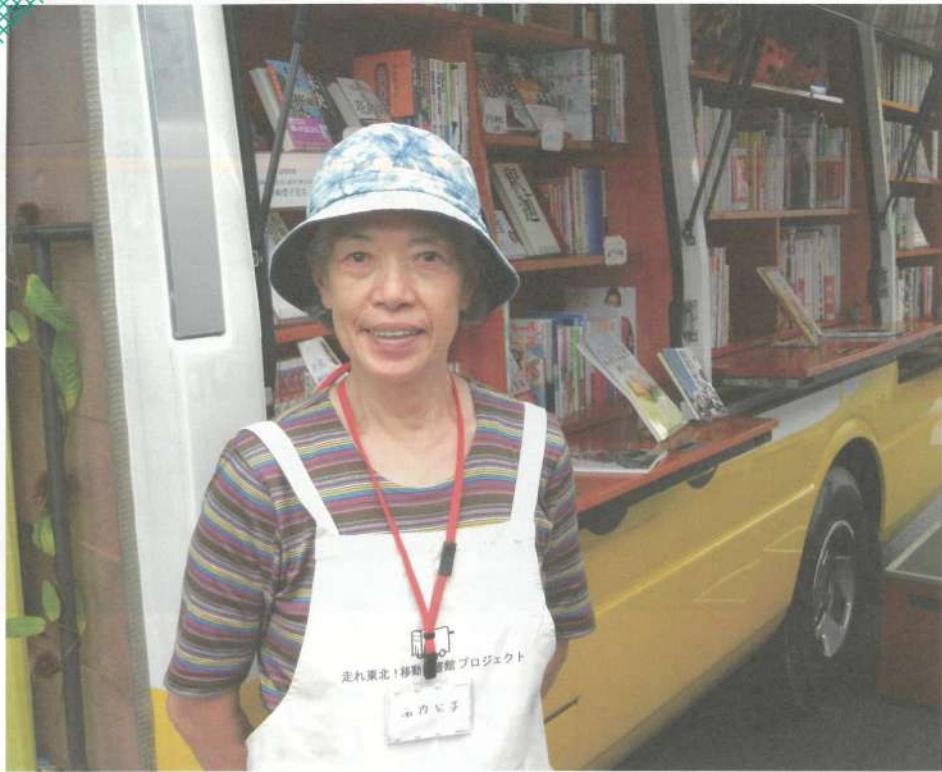
ラオス Laos

報告：竹谷麻莉子（ラオス事務所）

勤続19年のカムポーン・ドゥアンサック職員（写真）。図書館事業一筋で頑張ってきた彼女に、シャンティの思い出を語ってもらいました。

「高校卒業までルアンパバーン県で育ち、その後ロシア（旧ソ連）で6年間、水文学と地理学を学びました。読書は以前から好きで、子どもたちとの活動に関わりたいと思ったことがきっかけで、1995年にラオス事務所に入職しました。初めは活動に慣れず、読み聞かせの練習をする日々が続きました。日本に渡航する機会も得て、児童教育や図書館活動について学び、理解を深めることができました。これまでの経験を通じて、図書館活動の大切な意義を学ぶことができたと思います」。

彼女は退職後、ヴィエンチャン市内の私立幼稚園で働くことが決まりました。「子どもたちの、読み聞かせや図書館活動に夢中になっている時の表情は、忘れることができません。シャンティにはこれからも、読書推進活動を続けていってほしいと思います」。期待を込めて語ってくれました。



ボランティアの皆さんに支えられて運行しています

山元 Japan

報告：熊島好一（山元事務所）

「温かい飲み物はいかがですか？」
「ヒー、ココア、それともお茶にしますか？」利用者さんへお茶出しの声がけをしているのは、ボランティアで手伝つてくださった西内公子さん（写真）です。

西内さんは、東日本大震災後すぐ、南相馬市原町区の石神第一小学校で炊き出しの手伝いをしていたところ、避難所のお母さんたちの「何か手を使つて作りたい……」という声を聞き、手芸教室を始めました。市内で染物屋を営む西内さん、手芸はお手の物です。

その教室は、市内で今も続いている、「生徒さんが、私よりどんどん上手になつていくのが悔しくて」と西内さんは笑います。「交通手段がないので、迎えに来ていただけるなら、いつでも手伝いますよ」と西内さん。運行日にお迎えにあがりますので、またよろしくお願ひします。

移動図書館では編み物や縫い物の本が今も大人気。移動図書館プラス西内さんの手芸ワンポイントレッスンなんて楽しそうですね。



冬の「あつまれ、浜わらす！」

気仙沼 Japan

報告：東さやか（気仙沼事務所）

震災を経験した子どもたちが海に対し畏敬の念を持つとともに、多くの恵みや喜びも与えてくれるということを、遊びの中から気づき学び、海と向きあうことを目的としたプログラム「あつまれ、浜わらす！」を気仙沼で行っています。

冬のプログラムでは、漁師さんと鮭網体験（写真）、海藻染め、浜で集めたシーグラスでキヤンドルづくりを行いました。鮭網体験では小学2年の女の子が「将来は漁師になりたい！」と地元の新聞取材に誇らしげに応えていました。

保護者からは「まだ海に行けない。あの日の事を思い出してしまう……子どもの方がしつかりしているのかな……」という声も出ました。子どもより親の方が、震災後、海と向きあえないかもしれないと感じました。

今後は子どもだけでなく、大人もこの地の豊かな自然や人と触れ合いながら、再び海と向き合う居場所と時間、きっかけをつくつていければと思います。それが新しい気仙沼の未来に繋がると信じます。



わたしたちのちいさな図書館

写真：渋谷敦志



ある図書館の1日

9:30	出勤時間	子どもたちが来る前に掃除します。
10:00	開館時間	子どもが来る 授業後に来ることが多いですが、時々、10時前にも子どもは集まっています。 読み聞かせ 毎日約2~3回、読み聞かせをしますが、多いときは4回以上することもあります。読む本は、そのとき集まってきた子どもの性別や年齢層を見てから決めるようにしています。
日中	読み聞かせ以外の活動	子どもたちとカードなどで遊びます。時々（主に土曜日）子どもたちにビデオを見せたりもします。
16:00	閉館時間	閉館してから掃除をします。
16:30	退勤時間	子どもが帰宅する時間に合わせるため、日によって異なりますが、このころです。子どもが16時過ぎまで残っているとき、掃除をしながら子どもが帰るのを待ちます。逆に子どもが少なかったりいなかつたりしたときは、閉館前に掃除を終わらせて閉館時間の16時に帰ります。

たしたちは、子どもに絵本が届き難民に笑顔が広がるように、カンボジア難民キャンプに図書館を作りました。それから33年。状況にあわせて、わたしたちは図書館を作ってきました。

難民キャンプの住民たちによるコミュニティ図書館、カンボジアの小学校にできた、これからモデルとなる図書館、アフガニスタン事務所の中を開かれた地域の子どもための子ども図書館。それはちいさいけど、子どもたちの大切な居場所です。

そして今、「自分たちの手で、必要なところに、図書館を」という動きが日本でも広がっています。東日本大震災の被災地で、仮設住宅を巡回している「走れ東北！移動図書館プロジェクト」を続ける中で、本と人が交流する場所として、図書館は住民に望まれているのを感じました。

本と子どもが好きなので、図書館員をやってみようと思いました。10年間続けてこられたのは、子どもと遊ぶのが好きだからです。シャンティやほかの団体と関わって仕事ができることも面白いです。頼んだ本が届かなかったときは少し困りましたが、それでも図書館員の仕事は毎日楽しいです。

ミン・タン
Myint Than

38歳／メラ難民キャンプ

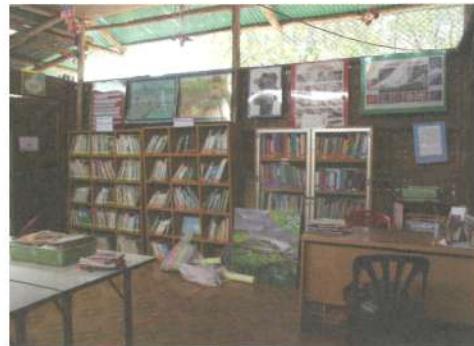


船橋市のNPO「情報ステーション」が展開する図書館や「リブライズ」など国内のちいさな図書館をご紹介します。

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプの コミュニティ図書館



子どもの部屋 壁に沿って並んだ書棚とその前にあるお絵かき用の机が見えます



大人の部屋 中央の大きな机は読書用、右に図書館員の机があり、壁には太陽系の図や風景画が掲示されています

祖国を離れ、閉ざされた空間である難民キャンプに暮らす難民たち。コミュニティ図書館は母語(民族の言葉)と情報を伝える大切な役割をなっています。そのため、大人のための部屋を絵本の部屋とは別に設けています。難民の自治組織であるカレン難民委員会とシャンティが連携して運営しています。図書館員も難民から選ばれています。

大人の部屋

大人のための図書室です。
絵本を卒業した高校生から利用されています

図書館員の部屋
補充した本に識別シールを貼ったり、傷んだ本を修理したり、本の管理作業をする部屋です。在庫がおいてあるのもこの部屋です



週2回、学校が休みの土曜日と平日の15時頃に来ます。図書館員さんに本を読んでもらい、みんなでゲームやすごろくで遊ぶのが好きです。絵を描いたりもします。歌はカレン語の歌を歌います。図書館員さんのつくった飾り(天井から吊るされている色とりどりの紙飾り)も好きです。

ナ・ペー
Na Pa
12歳



ナちゃんの好きな絵本
『きつねの家族』嘘つきで孤独なきつねが子どもをライオンから守るお話です。互いに愛し合うこと、幸せを共有すること、みんなの言うことを聞くことを学びました。

15

お絵かき用の折りたたみ机

小さい座卓型で、読み聞かせなどのときは、脚を折りたたんで片づけ、部屋を広くつかいます

子ども用の書棚

立った子どもの目線にあわせて、表紙を見やすいように本を並べられるつくりです



図書館には週に3回、
土曜日と、平日放課後に来ます。

絵本や紙芝居など図書館員におはなしを聞かせてもらったり、歌を歌ったりします。

図書館の好きなところは、歌えるところとたくさんの本が読めるところ。

ポー・ガウ
Paw Gau
12歳



ポーちゃんの好きな絵本
『最もすばらしい愛』(シャンティ出版)父親がない男の子とお母さんは村に受け入れてもらえず、とてもかわいそうだなと思いました。

14

日本の図書館

まちかど

「自分たちの手で図書館を」という動きが日本でも広がっています。

船橋市の団地や町の中に民間の力で図書館を運営する
NPO「情報ステーション」はコミュニティを生み出す

交流空間としての図書館に注目しています。

袖ヶ浦団地まいぶれ図書館

団地の中の
図書館

市内でも高齢化が進む
団地の中につて、登録
人数は700人、蔵書3
万7000冊、月刊の貸
出数は1000冊と、活
発に利用されている図書
館です。住民がボランティ
アで運営し交流の場にな
っています。

長くボランティアを続
けている工藤さんは「こ
こでパソコンも覚えたし、
知り合いが増えてよかつ
た。『情報ステーション
の工藤さん』と呼んでく

れるんだ」。夕方にやつ
てくる顔見知りの子ども
たちと会うのも楽しみの
ひとつだと言います。
カウンターで貸出業務
をしていた内山さんにき
つかけを伺うと、「市の
図書館より来やすかつ
たので、1年ほど前か
ら来るようになって、ボ
ランティアを始めました。
子どもやお母さんと年代
を超えてつきあえますね。
驚くほど本を読む人もい
て、刺激になります」。



習志野市袖ヶ浦団地のまいぶれステーションの中にあります

?

NPO「情報ステーション」とは

「地域活性で日本を元気に！」という理念のもと、まちづくりに取り組む団体です。7年前から「地域の交流拠点」として民間図書館をはじめました。現在、22館を運営、市民から寄贈を受けた6万冊の蔵書を各図書館の利用者に応じて入れ替えるサービスをしています。まずは船橋エリアに30図書館を開設するべくがんばっています。

岡直樹さんに聞きました

情報ステーション代表

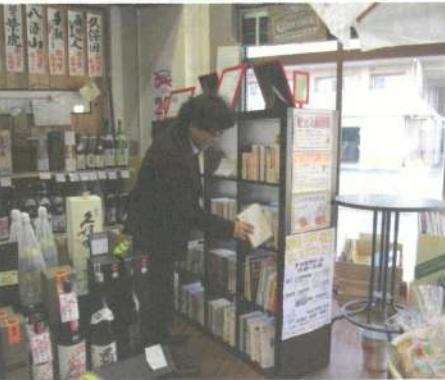
ぼくらは本を借りたり、世間話をしたり、ボランティアをしたりと毎日つい寄りたくなるような、家でも会社でもない居場所として、誰もが家から歩いていくぐらいいの距離に図書館がある街を作つていただきたいと思っています。

団地の自室にこもっている人が、家に居る時間を減らすのが、地域活性化の第一歩です。外に出てくれれば交流は生まれるし、経済効果も出ます。ただ、理由がない人は外に出にくい。無料で借りられて誰にでも開かれているのが「図書館」。自然に顔見知りになつたり、オープンなコミュニティが生まれます。来ないと心配してくれるような関係ですね。本の寄贈やボランティアすることによって、一方的にサービスを受けるだけに留まらない、循環が生まれてきます。お店の場合、図書館を作る、本の貸し借りでお客さんがリピーターになってくれますし、地域にCSR（企業が社会的に持つ責任）を果たすこともできます。文化と経済が栄える街はお金かけなくともできる、そういうモデルを作つていきたいです。

（聞き手：清野陽子）

お店の中の
図書館

酒どっとコム前原図書館



「情報ステーション」スタッフの成瀬
麦彦さんが書棚の本を入れ替えに
来てくれます

酒屋として、大人だけではなく地域の家族連れにも来店して欲しいと願い、各地のおいしいお菓子などを扱っていた「酒どっとコム前原店」。その延長として図書館を始めました。接客に差し支えないよう、利用者自身で貸出や返却ができるセルフ貸出のシステムを備えています。バーコードをピッとするのが楽しい

と小学生も多く来店するようになりました。

「子ども連れのお母さんが増えてきたので、絵本を多く入れてもらうようになりました。帰省で来るお孫さんのためにと絵本を借りに来たおじいちゃんがいましたが、本当に嬉しそうしてくれて、こちらも楽しいです」と、奥さんも図書館に手応えを感じているようです。



リブライズを作った二人

河村獎さん 自分のコワーキングスペース（協働スペース）で、借りられた本をネットで紹介したら、その本についての話題が弾んでいて、楽しそうだったんです。利用者が本を置き始めて冊数が増え、貸し借りなど大変になってきたので蔵書管理をするシステムが欲しいと思ったのがきっかけ。本棚はそこにいる人の性格を反映します。本棚を見ると、どんな人が集まっているのか、その場所の性格がわかりやすいでしょう。そこに関わるためのツールになれるのが「リブライズ」だと思っています。

地藏真作さん 本屋の数が減り、街から本が見えなくなっていましたが、家や会社、カフェに眠っている本はたくさんあります。それを見るようにしたいと思いました。だから2年たつますが、昨年から使ってくれる人が増えましたね。大学の研究室の書棚をまとめて、専門図書館のように使うことができます。200冊を超えると蔵書の管理は大変になりますので、ぜひ個人でも使ってほしいですね。私設図書館、大学の研究室から個人宅まで、自由度が高いシステムですよ。



リブライズ すべての本棚を図書館に

本によるコミュニティ形成を
促す点が評価され、
2013年グッドデザイン賞を受賞

デザイナーでありプログラマーの河村さん（左）、友人のプログラマー地藏さん（右）と「リブライズ」を開発、運営している。二人が拠点をおく「下北沢オープンソースCafe」の書棚（写真）には、プログラミングやデザインの専門書がずらり



ソトコト No.167 特集 おすすめの図書館

地方から続々と誕生しているユニークな公立の図書館を写真やイラストを豊富に使い、紹介した特集。「全国ソーシャル図書館ガイド70」では、シャンティが運営する陸前高田コミュニティ図書館も登場。（2013年5月発行）

図書館は、国境をこえる シャンティ国際ボランティア会編（教育史料出版会）★

シャンティ30周年に当たり、実際に現場で活動したスタッフが、国と地域別に図書館活動の意義を執筆した。



はなほん 花井裕一郎（文屋）

「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」という理念のもとで建築され、日本中から注目される小布施町立図書館「まちとしょテラソ」。映像作家だった花井さんが初代館長となり、図書館立ち上げまでの歩みをまとめた一冊。



ちいさな図書館づくりを実現する 「リブライズ」

自分の本棚が図書館になつたら。そんな夢をかなえる蔵書管理がカンタンにできるシステムができました。「全ての本棚を図書館に」を合言葉に、インターネット上に無料で公開、貸し出すこともできます。現在、登録されているのは15万冊。あなたもリブライズで「自分のちいさな図書館」をつくりませんか？

- 1 バーコードリーダーをつないだパソコンから「リブライズ」のサイトに接続、自分の書棚「ブックスポット」を作成します

リブライズ
<http://librize.com>

- 2 本の裏表紙のバーコードを読み取って、本を登録



- 3 サイトに蔵書一覧として表紙が並びます

- 4 あなたが登録した本を利用者が借りることができます



BOOKGUIDE 図書館についてもっと知る本

★印についている本は、SVAでも販売しています（電話 03-5360-1233 クラフト・エイド担当）

走れ！移動図書館 鎌倉幸子（筑摩書房）★

シャンティが東北で運行中の移動図書館のプロセス、本や図書館の役割などを鎌倉スタッフが執筆。この本を通じて本や図書館のチカラを認識するとともに、震災から3年経つ、東北のことを考えるきっかけに。



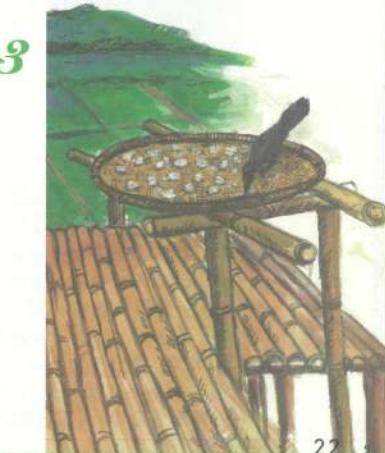
つながる図書館 猪谷千香（筑摩書房）

課題解決型図書館として注目される千代田区立図書館や鳥取県立図書館など、変貌する公共図書館を取り材した。本特集で紹介した「情報ステーション」「リブライズ」など、新しい動きについても詳しい。

ກາຄ່າ

ເນື້ອໃດ: ລັດ ແລະ ເຈົ້າມະນີໄສ
ຕະຫຼາມກົກລົມໃຫຍ່ ມະຫວາງຫຼາຍ

金のカラス



ところが、
女の子がつい目をはなしたすきに、
カラスが飛んできて、ごはんを
食べてしまいました。

1

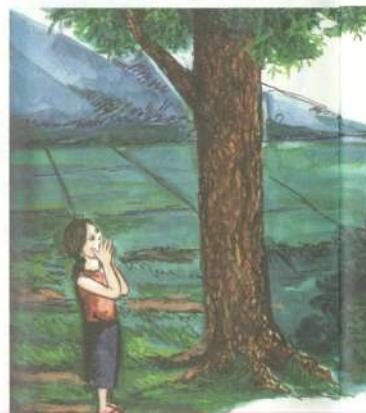
むかしむかし、
貧しいけれど
心のやさしい
親子が
暮らしていました。



ある日のこと、
お母さんが残っていたごはんを
かごに広げました。
「ごはんを乾かすから、
しつかり見はついてね」
とお母さんは女の子に言いつけ、
仕事にでかけました。

「わたしたちはとても貧しいのよ。
どうしてご飯を食べてしまうの？」
泣きだす女の子を見て、
カラスはかわいそうに思いました。
「お嬢さん！ ごめんなさい。」

おわびをするので、村はずれの
タマリンドの木まで来てください」
女の子は言われるまま、
タマリンドの木の下に行きました。



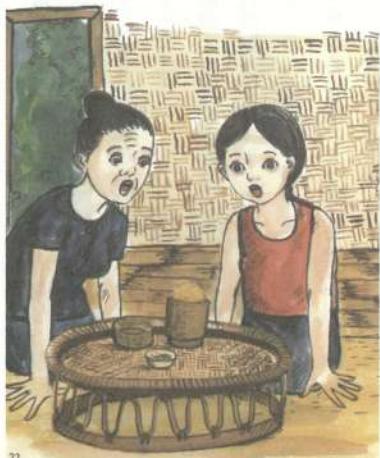
5 木の上には立派な家があつて、
カラスは女の子にお腹いっぱい
ごちそうをふるまいました。
「娘さん、おわびにごはんを返します。
大きいの、中くらいの、小さいの、
どのティップカオがいいですか？」
ティップカオはごはんをいれる竹カゴです。
「おかあさんとふたり暮らしだから、
小さいのでいいわ」
と女の子はこたえました。

21



6

女の子は家に帰り、
お母さんと小さなティップカオの
ふたを開けてびっくりしました。
なかには、まばゆい金の棒が
ぎっしりつまつていたのです。



22

7 カラスのくれた金の棒のおかげで、
貧しかったお母さんと女の子は
お金持ちになりました。
いつまでも幸せに暮らしました。



23

23

「メッセージ展」に ご協力いただいた皆さん

いまきみちさん／エリック・カールさん／加古里子さん／かさいまりさん／加藤幸子さん／上條淳士さん／姜尚中さん／黒田夏子さん／こうの史代さん／さえぐさひろこさん／関谷裕子さん／たちもとみちこさん／筒井頼子さん／西内ミナミさん／西巻茅子さん／濱野京子さん／原田英治さん／光丘真理さん／やべみつのりさん（五十音順）



作家の皆さんからいただいたメッセージをパネルに収め、著書と一緒に展示



来日していたシーカー・アジア財団のアルニー事務局長と吉田啓助『はじめてのおつかい』（福音館書店）



小布施町立図書館「まちとしょテラソ」の初代館長の花井裕一郎さんの講演

シャンティの設立記念日にあわせて、私たちの活動を支えてくださっている皆さんに感謝し、新しい方にも活動を知つて欲しいという思いで、「SVAのつどい」を行いました。

「ヒト・コト・モノをつなぐ本の広場を創ろう！」を実行されている花井裕一郎さんの講演を伺つて、「ワクワク」、「ないのにある」、「図書館と可能性」というキーワードが、来られたみなさんの心に留まつたようでした。

交流会では、話が弾み、協力企業から提供いただいたプレゼントの抽選会も盛り上がりました。最後にミヤンマー事務所長として赴任する中原から2014年から活動を始めるミヤンマー事業について、お話しをいたしました。

本で、つたえていくこと

12月7日「SVAのつどい」を開催しました

講演会場で「メッセージ展」も同時開催

本は「生きる力」、「光」、「わたしだけの風景」、「魔法の旅」、「窓」、「友だち」、皆さんのメッセージの中で変幻自在に姿を変えていきます。

「本の力ってなんだろう、本でつたえていくってどんなことだろう」と、作家や漫画家の皆さんからのメッセージやイラストを、当日は会場に著書と一緒に展示しました。

図書館活動を通じてアジアの子どもたちに大切なことを伝えてきたシャンティの活動を知つて欲しい、仲間になつて欲しいと願いを込めて、お願ひしたものです。

また、「絵本を届ける運動」でお世話になつている出版社や企業には、作家のご紹介と参加者へのお土産の提供協力をお願いし、協力してくださいました。



かみじょうあつし
上條淳士さん
道のないところに
道を見つけるのが読書です
でも、どの道を選ぶか
決めるのは自分しかいない
ぼくもそうでした



こうの史代さん
自分の中に起こる、
さまざまな感情や思い。
家族や友達にわかつてもらえなくても、
本を読んで、同じ思いを
共有することができる。
そして、たとえそれが
マイナスの感情でも、つらい感情も
「乗り越えた人がいる」ということを、
学ぶことができます。



かことうし
加古里子さん
本はいっしょにどきどきしたり
笑ったり、なかよしをます
たのしいともだち。
本はさびしさをなぐさめ
つらい心をいたわってくれる
やさしいおかあさん。
本は正しいおこないをはげまし、
人の道を示してくれる
しっかり父さん。



エリック・カールさん
あらゆる年齢の人が私の絵本を
読んで満ち足りた気持ちになり、
家族や友だちと一緒に
絵本を楽しみながら読むことが
できますように。
多くの人が本に親しむと同時に、
希望に満ちたメッセージが込められた
私の物語が全ての人々に平和と
人生の美しさを届けられますように。

「本のチカラ」をテーマに
いただいたメッセージの一
部をご紹介します

シャンティな 人たち

Shanti
extra.
番外編
日本人スタッフ
の紹介

広報課



広報
清野陽子
せいの・ようこ



課長補佐兼
ファンドレイジング
斎藤英雄
さいとう・ひでお



課長
鎌倉幸子
かまくら・さちこ



宗教部門
神野太賢
じんの・たいけん



広報
山田貴子
やまだ・たかこ



広報
後藤由紀子
ごとう・ゆきこ



ATS・会員
三宅千英子
みやけ・ちえこ



ATS・会員
平島容子
ひらしま・ようこ



宗教部門
日比洸紹
ひび・こうしょう



長沢有華
ながさわ・ゆか



笠井俊一
かさい・しゅんいち



室長
木村万里子
きむら・まりこ



室長
木村万里子
きむら・まりこ



笠井俊一
かさい・しゅんいち

緊急救援室



室長
木村万里子
きむら・まりこ



緊急救援室
木村万里子
きむら・まりこ

海外事業課



カンボジア
真屋友希
まや・ゆき



タイ・BRC
鈴木晶子
すずき・あきこ



課長
神崎愛子
かんざき・あいこ



経理
吉川次郎
よしかわ・じろう



ミャンマー兼カンボジア
藤川和美
ふじかわ・かずみ



アフガニスタン
菅磨里奈
すが・まりな



ラオス
鈴木淳子
すずき・あつこ

国内事業課



絵本を届ける運動
本田昌子
ほんだ・まさこ



絵本を届ける運動
河口尚子
かわぐち・なおこ



絵本を届ける運動
野口早苗
のぐち・さなえ

国内事業課

国内事業課



クラフト・エイド
佐藤純恵
さとう・すみえ



クラフト・エイド
山本裕理
やまもと・ゆり



クラフト・エイド
能野秀美
のうの・ひろみ



クラフト・エイド
渡辺ひろ
わたなべ



絵本を届ける運動
大野優子
おの・ゆうこ



絵本を届ける運動
本田昌子
ほんだ・まさこ



絵本を届ける運動
河口尚子
かわぐち・なおこ



絵本を届ける運動
野口早苗
のぐち・さなえ



課長
岡本喜代一
おかもと・きよかず

東京事務所と海外事務所、東北の事務所に勤めるスタッフです(2014年3月31日現在)

※「ぐりとぐら」(福音館書店)、「はらべこあむし」(信成社)、「きんぎょがにげた」(福音館書店)、「パルボンさんのおでかけ」(アリス出版)

岩手事務所



A.千葉りか
よしはり・りか
B.吉田晃子
よしだ・あきこ
C.三木真冴
みき・まこと



A.似田貝淳
にたい・いちん
B.むらなかかずし
むらなか・かずし
C.村中一鉄
むらなか・いつて
D.佐藤友貴
さとう・ゆき



A.津田千歩季
つだ・ちあき
B.村上悠
むらかみ・はるか

気仙沼事務所



A.白鳥孝太
しらとり・こうた
B.東さやか
ひがし・さやか
C.笠原一城
かはら・かずき
D.里見容
さとみよう
E.畠山友美子
はたけやま・ゆみこ
F.青島寿宗
あおしま・じゅしゆう
G.須賀良央
すが・りょうえい
H.武田祐樹
たけだ・ゆうき



所長
加瀬貴
かせ・たかし

ラオス



アドバイザー
手束耕治
てづか・こうじ



所長
山本英里
やまもと・えり

カンボジア



山室仁子
やまむろ・ひとこ



萩原宏子
はぎはら・ひろこ



大橋美紗子
おおはし・みさこ



江口秀樹
えぐち・ひでき

海外事務所

ミャンマー



ミャンマー(ビルマ)
難民事事業



所長
中原亞紀
なかはら・あき



所長
小野豪大
おの・たけひろ



経理
黒澤真理子
くろさわ・まりこ
課長
吉川剛
よしかわ・たけし

経理・総務課



所長
三宅隆史
みやけ・たかふみ

アフガニスタン



A.古賀東彦
こが・とうひこ
B.鈴木清子
すずき・きよこ
C.高橋あすか
たかはし・あすか
D.金沢幸枝
かなざわ・ゆきえ
E.太田和代
たいた・わだい
F.今村貞行
いまむら・さだゆき
G.岩崎敏
いわさき・とし



データ管理
鎮野誠
しづの・まこと
総務
塚本真衣子
つかもと・まいこ
経理
黒澤真理子
くろさわ・まりこ
課長
吉川剛
よしかわ・たけし

日本 しやんていな旅

千葉県袖ヶ浦市

真光寺

アクアラインの千葉側、田園に囲まれた真光寺。樹木葬墓苑には若木が根をはり、里山が続く穏やかな景色が望めます。しかし、岡本和幸住職は、この山も荒れていたのだといいます。

1994年、真光寺に入ったとき、町の状況に目をみはりました。山を崩した砂を満載したダンプが里の細い道を何台も飛ばし、売られた山が削られた山肌をさらしていました。「そんな地元を、好きになれると、ゴミを不当投棄されないよう、谷に田を作り「上総・自然学校」を始めました。森を手入れ

●曹洞宗真光寺
千葉県袖ヶ浦市川原井634
電話 0438-75-7365

●樹木葬墓苑
区画型の「森の苑」、合葬型の「桜の苑」がある。バス見学会(東京駅、千葉駅出発月1回)

●アクセス
JR内房線・袖ヶ浦駅下車。車で20分



シャンティからのお知らせ

人事のお知らせ

●入職

能野秀美 国内事業課クラフト・エイド担当(1/1付)
昌山友美子 気仙沼事務所総務・経理および事業担当(1/14付)

眞屋友希 海外事業課カンボジア担当(1/27付)
本丸愛子 ミャンマー事務所コーディネーター(2/1付)

玉利清隆 カンボジア事務所副所長(3/24付)

●退職

大菅俊幸 広報課宗教法人担当(12/31付)
自覚大道 広報課宗教法人担当(12/31付)
三浦友幸 気仙沼事務所総務担当、専門家派遣事業(2/10付)

熊島好一 山元事務所プロジェクトマネージャー(2/28付)

利根川佳子 国内事業課クラフト・エイド担当(3/16付)

里見容 気仙沼事務所広報兼総務補佐担当(3/31付)

●異動

神崎愛子 国内事業課課長より、海外事業課課長代行(1/1付)

平島容子 国内事業課会員／アジアの図書館サポーター担当より、広報課アジアの図書館サポーター兼会員担当へ(1/1付)

藤川和美 国内事業課クラフト担当から、海外事業課ミャンマー兼任

中原亜紀 カンボジア事業担当へ(2/1付)
海外事業課課長より、ミャンマー事務所所長へ(2/1付)

山室仁子 海外事業課カンボジア担当より、ラオス事務所図書館活動・教員養成事業担当兼学校教育事業補佐へ(3/17付)

●役職／職務形態変更

岡本喜代一 国内事業課課長補佐より、国内事業課課長へ(1/1付)
神野太賢 広報課宗教法人担当
パート職員より契約職員へ(1/1付)
神崎愛子 海外事業課課長代行より、海外事業課課長へ(2/1付)
三木真冴 岩手事務所プロジェクトマネージャーから、所長代行へ(2/1付)
渡辺ひろ 国内事業課クラフト・エイド担当
パート職員より契約職員へ(3/1付)

2013年度 絵本の旅立ち

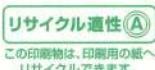
2013年度「絵本を届ける運動」で集めた絵本は15635冊。カンボジアとミャンマー(ビルマ)難民キャンプ向け絵本14727冊は船便、アフガニスタン向け絵本908冊は航空便にて、2月中旬日本を旅立ちました。3月から4月にかけて各事業地に届きます。

おこづかいをためて参加してくれるお子さんから、企業単位でのご参加など、お一人おひとりのあたかくご協力でこの活動は成り立っています。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。今年の目標は15000冊です。お申込みを心よりお待ちしております。

担当◎「絵本を届ける運動」 野口早苗

編集後記

12月から3月にかけて例年以上に異動が多くなりました。新人スタッフもすっかりシャンティに溶け込み、がんばっています。海外へ赴任した者も退職者も、それぞれの場でいきいき過ごせますように。(清野陽子)



「シャンティ」は、FSC®森林認証紙によるVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

シャンティ 2014年春 274号

2014年4月1日発行

発行人 若林恭英

発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1220 FAX 03-5360-1220
WEB: <http://www.sva.or.jp> E-Mail: info@sva.or.jp
郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士

装丁・レイアウト 矢萩多聞 特集イラスト さいとうともえ
印刷 株式会社大川印刷 [定価550円]

©2014 Shanti Volunteer Association. All Rights Reserved. Printed in Japan.
●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。



①山門から樹木葬墓苑へ納骨に向かう ②坐禅会
③伽藍の池も住職と職員が手がけた(写真提供:真光寺)



卷末言

図書館は、居場所です

鎌倉幸子

目的がある人でも、
ない人でも、
ふらつと立ち寄れる場所は、
現代社会において
あるようでない。

小さい頃住んでいた団地に、毎週日曜日に家を子どもたちに開放していた文庫がありました。

庫は、私がカンボジアで学校図書室を作っていた時の原点となつています。

2010年にNHKが「無縫社会」という言葉を用いて現在の社会の人同士の絆が希薄にな

に来られる場所は公園か図書館だけ」とおっしゃつた方がいます。予約もいらす、費用もかかりず、目的がある人でもない人でも、ふらつと立ち寄れる場所は、現代社会においてあるようでない。私が文庫に「居場所」を感じたように、そんな場所に図書館が成り得るのではな
いでしょうか。

図書館は無縫社会の中でも本が人をつなぎ、人が人と繋がれる場所。そんな場所が存在することを知るだけで、アジアの子どもたちだけではなく、日本の私たちも、どれだけ心の支えになるかと思つてやみません。

の手作りの3時のおやつ、ボランティアとして来ていた大学生や団地に住む子どもたちとの交流、そしてなによりさまざまなお絆類の児童書や絵本に魅了され、気が付いたら常連になつていました。本を読まないで友達と騒いだ日もあります。文庫のある家の階段に座り、もくもくと一冊だけながらが、ぬくもりが本大震災が起き、今度はその「絆」という言葉がいたるところで呼ばれていました。無縁を望んでいるわけではない。絆が、人とのつながりが、ぬくもりが不要になつたわけではない。ただ「場所」がなくなつてゐるだけなのだと。そして失いかけていたときにはそれを取り戻そうとするのだと。

す。どんな時でも子どもに扉を開き、居場所を作ってくれた文

震災後の東北で移動図書館の活動を立ち上げたとき、「自由